

九重山の火山活動解説資料（平成 28 年 12 月）

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められませんが、GNSS¹⁾ 連続観測によると、一部の基線で伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に留意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 12 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2-①③）

硫黄山付近で白色の噴煙が最高で噴気孔上 200m まで上がりました。

・地震や微動の発生状況（図 2-②④）

火山性地震の月回数は 3 回（11 月：4 回）と少ない状態で経過しました。

火山性微動は 2006 年 10 月以降、観測されていません。

・地殻変動の状況（図 3、図 4）

GNSS 連続観測では、坊ガツルー牧ノ戸峠、星生山北山腹一坊ガツル、星生山北山腹一直入 A の基線で、2012 年頃から伸びの傾向が認められます。

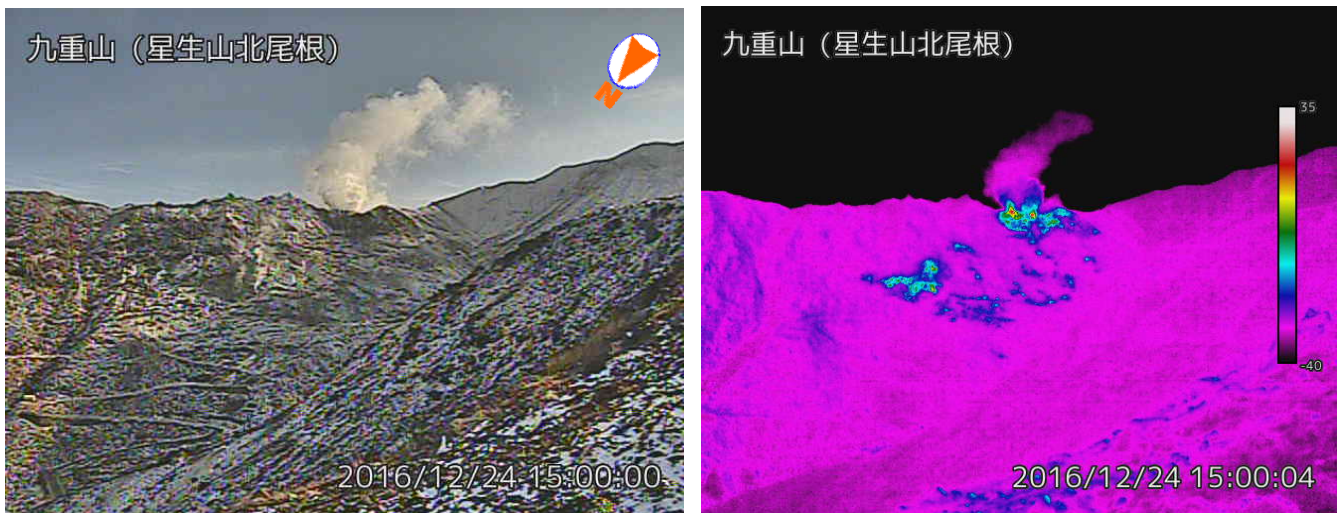


図 1 九重山 噴煙の状況

（12 月 24 日、星生山北尾根監視カメラによる、左図：可視画像、右図：赤外熱画像）

平成 28 年 12 月 1 日から星生山北尾根観測点の監視カメラの運用を開始しました。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 1 月分）は平成 29 年 2 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び、大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用しています (承認番号：平 26 情使、第 578 号)。

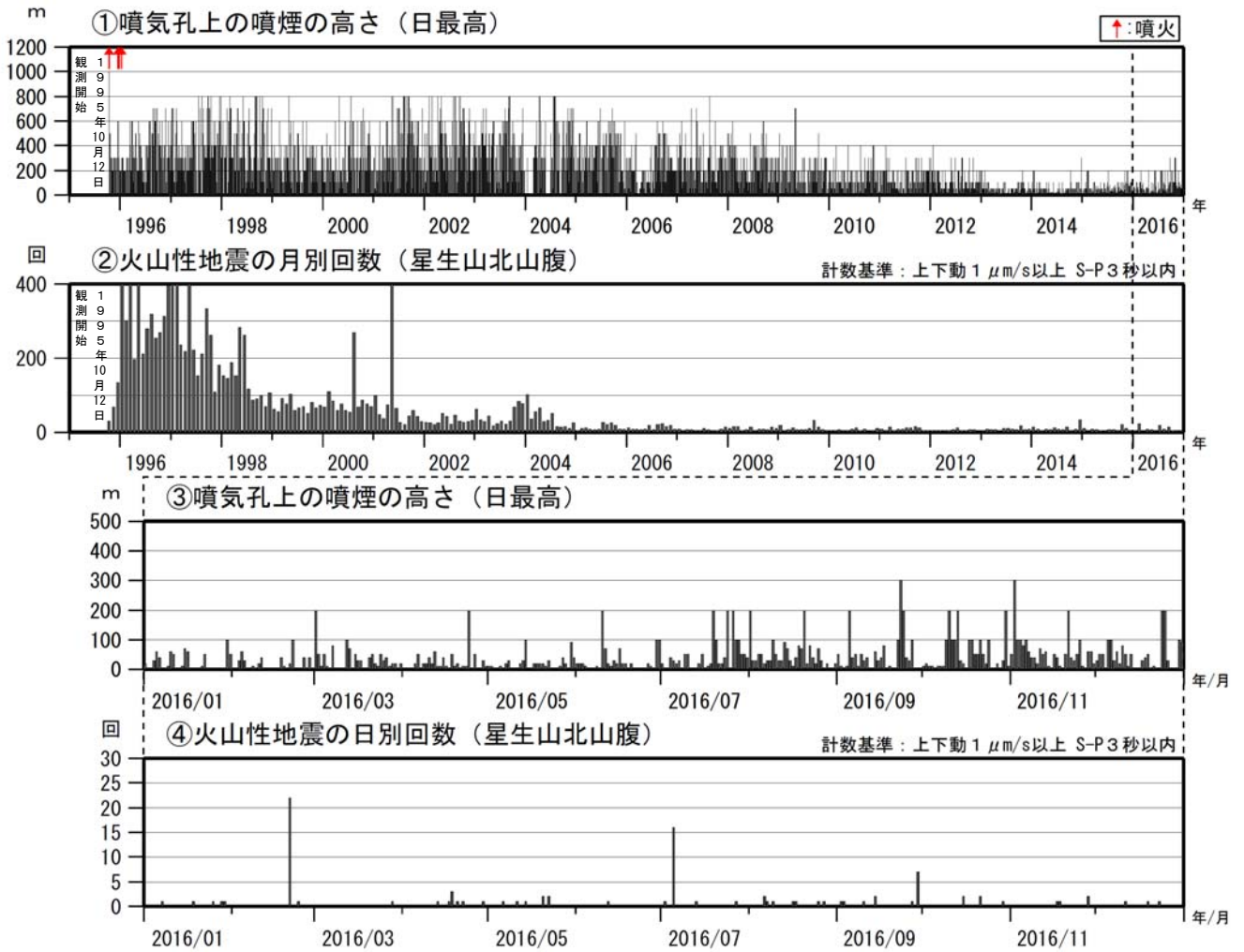


図2 九重山 火山活動経過図（1995年10月～2016年12月）

<12月の状況>

- ・硫黄山付近で白色の噴煙が最高で噴気孔上 200mまで上がりました。
- ・火山性地震の月回数は3回（11月：4回）と少ない状態でした。

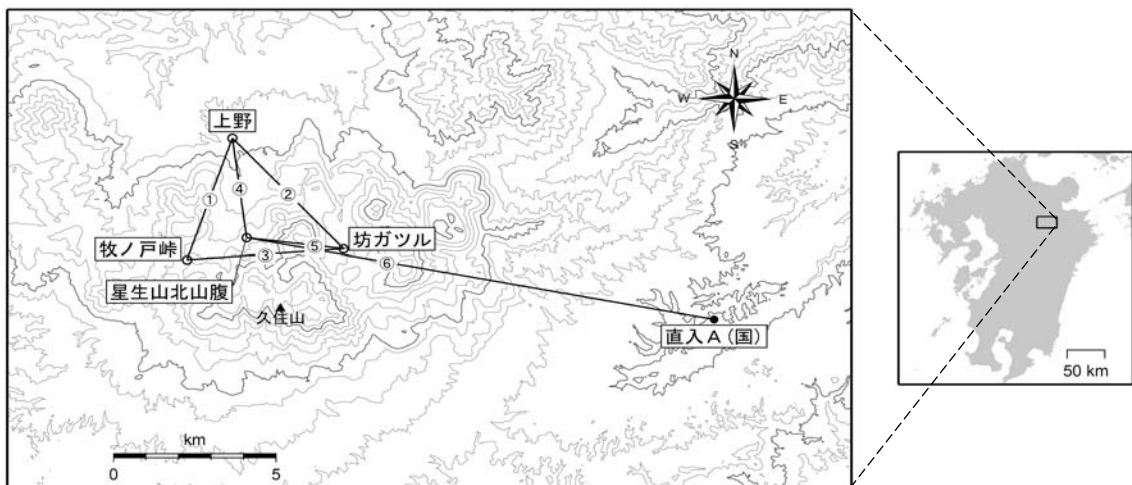


図3 九重山 GNSS連続観測点と基線番号

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院

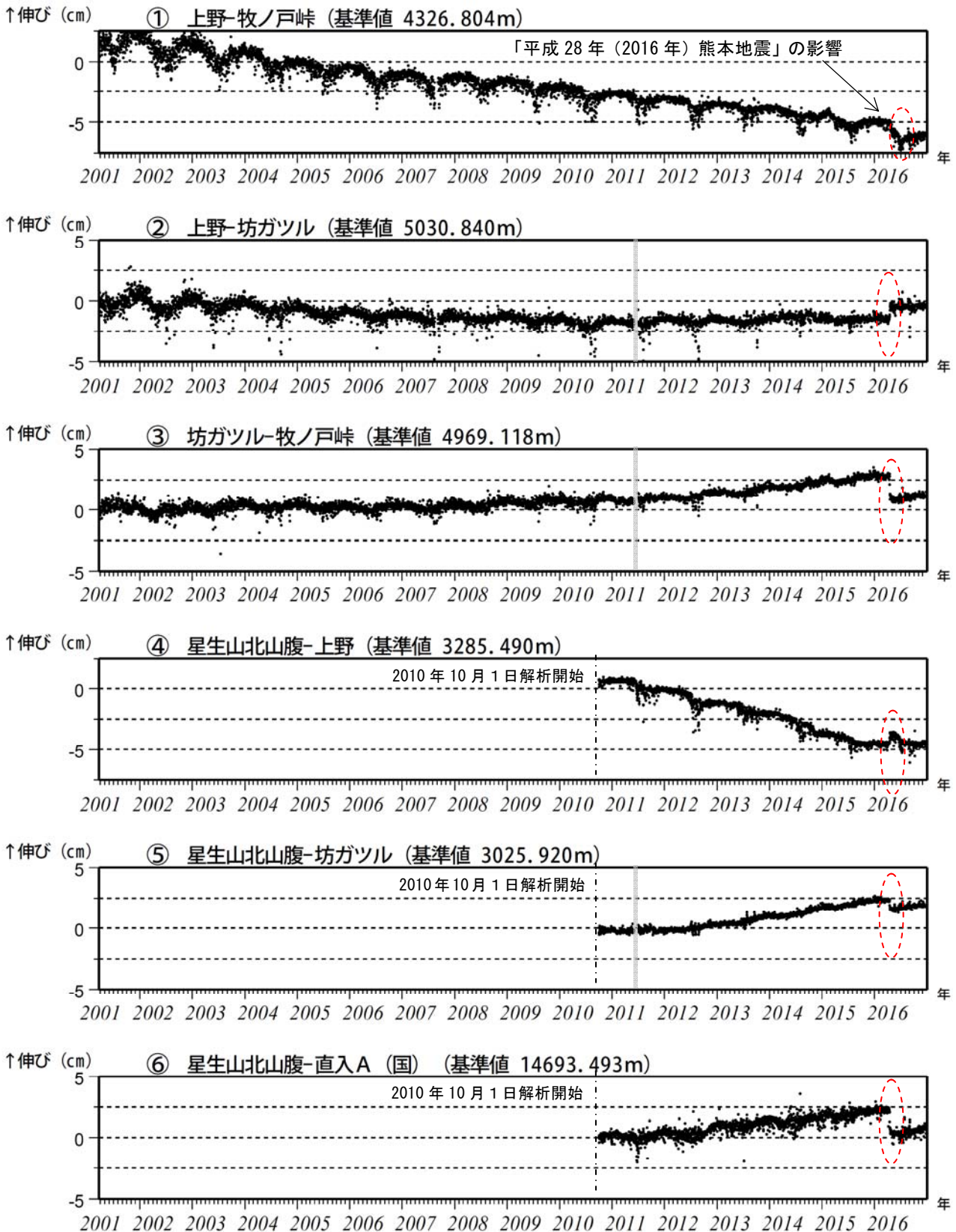


図 4 九重山 GNSS 連続観測による基線長変化（2001 年 3 月～2016 年 12 月）

GNSS 連続観測では、③坊ガツル-牧ノ戸峠、⑤星生山北山腹-坊ガツル、⑥星生山北山腹-直入Aの基線で、2012 年頃から伸びの傾向が認められます。

これらの基線は図 3 の①～⑥に対応しています。

2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

(国)：国土地理院

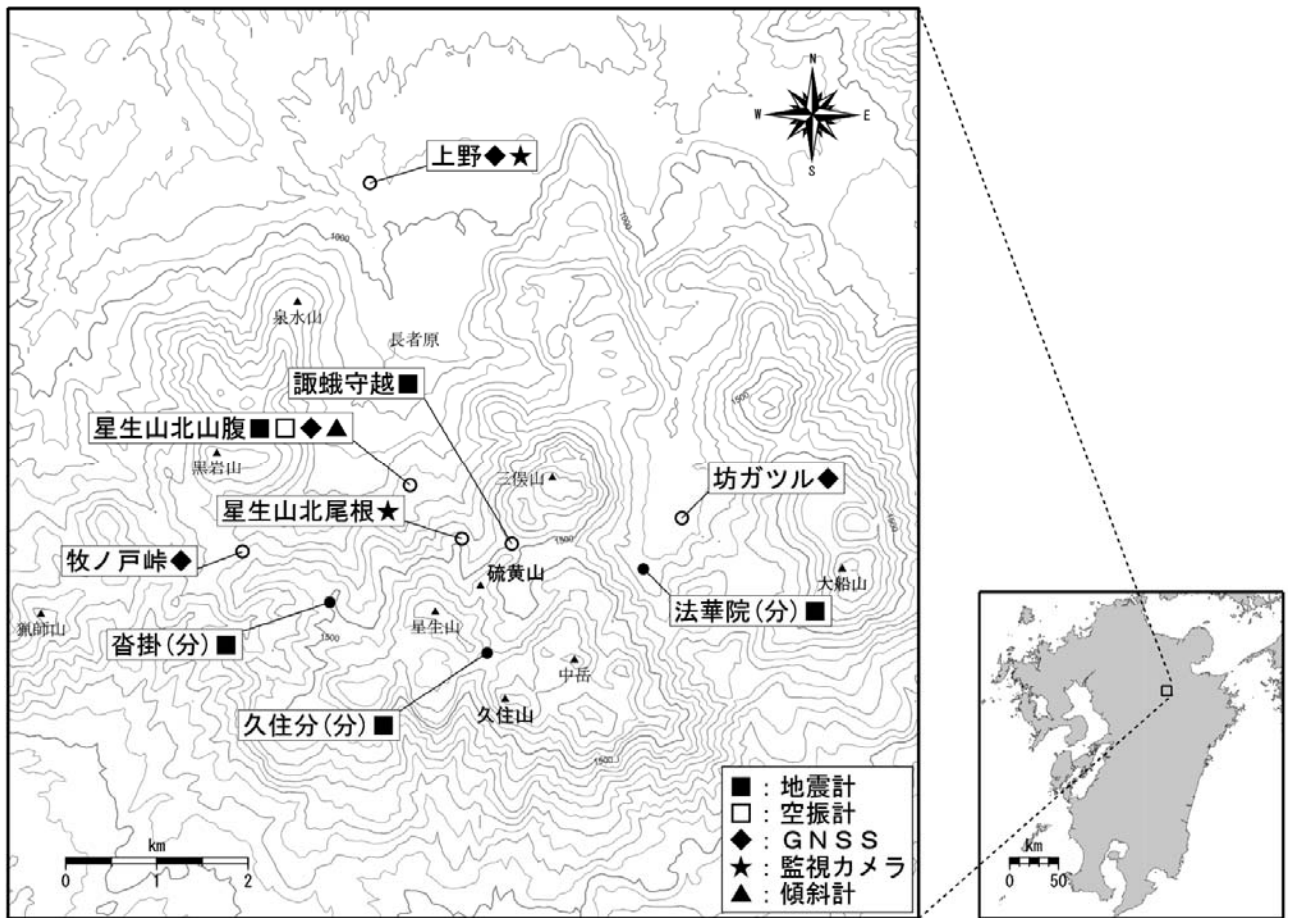


図5 九重山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（分）：大分県

平成 28 年 12 月 1 日から星生山北尾根観測点の監視カメラ及び諏蛾守越観測点の地震計の運用を開始しました。